

ベル・エポック 美しき時代 パリに集まった芸術家たち

ワイズマン&マイケル コレクションを中心に

パナソニック汐留美術館（汐留） 2024.10.05～12.05



「ベル・エポック」は、19世紀末から第一次大戦勃発までのパリを舞台に花開いた“消費文化の時代”を指す。この時期は、近代芸術の隆盛期でもあり、絵画や工芸だけではなく、文学、音楽、舞台、ファッションなどさまざまなジャンルの魅力を重層的に広げ、両大戦間の欧州文化にも大きな影響を残した。米国の実業家である「ワイズマン」は、芸術家が集う「パリ・モンマルトル」の世相を色濃く映して「ロートレック」「ジュール・シェレ」が描いたポスター、「ガレ」や「ラリック」の工芸品などの多彩な作品を紹介している。

本展では、「ロートレック」や「ジュール・シェレ」によるポスター、当時のブルジョワたちが身にまとった衣服や装身具に、「エミール・ガレ」や「ジュール・シェレ」の工芸作品に加えて、芸術家同士の交流が伺える書簡や書籍など、その頃のパリの繁栄や活気を鮮明に伝える多用分野の作品が展示される。

「ワイズマン」と「J.E. マイケル」の絵画コレクションは、往時のモンマルトルの世相を色濃く反映した珠玉の作品群の本邦初公開で注目されている。

